

大分市教育委員会
教育長 足立一馬殿

2008年7月25日

日本共産党中部地区委員会
委員長 河野武男
日本共産党大分市議団
団長 大久保八太

教員採用等汚職問題に対する申し入れ

大分県の教員採用、昇進をめぐる汚職問題は、県教育委員会幹部をはじめ現職の校長、教頭が贈収賄容疑で逮捕、また県議など関係者の口利きなど、底なしの様相を呈しています。本事件は、県内にとどまらず全国的に衝撃を与え、大きな社会問題となっています。子どもや保護者、地域からの教育行政への一刻も早い信頼回復が求められています。

一連の事件については、①選考過程の透明性、情報公開など、不正防止のための、民主的で公平・公正な採用システムとなっていないこと ②本来、住民本位の立場にたつべき教育委員会が知事主導のもとで形骸化し、不正をただすチェック機能を喪失していること ③教職員の削減によって、受験倍率が高くなって狭き門となっていることなどが原因だと考えられます。

これまで常態化していた不正実態の全容を解明し、事件の再発防止策を講ずることはもとより、独立した行政機関としての本来あるべき姿に取り戻すことは急務の課題です。これは教育関係者だけでなく、よりよい教育環境を求めている市民の願いです。

よって、このような前代未聞の不祥事に対し、真相究明と再発防止、教育行政の正常化のために、本市教育委員会としても下記事項について取り組まれるよう強く申し入れます。

記

1、県教育委員会に対し、事件の全容解明と市民への公表。再発防止、信頼回復のための対策を強く要望すること。

2、政治家など口利き者の氏名公表を県教育委員会に強く要望すること。

3、市教委幹部の口利きの事実も報道されていますが、議員への説明と新聞報道と食い違いが生じています。この事実関係を明らかにするとともに、市教委内部等の口利きの実態調査をおこなうこと。

4、教育現場では「先生もお金を使ったの」と質問されるなど、子どもにも疑心暗鬼が広がっていますし、新採用職員受け入れの学校では匿名電話などへの対応に追われるなど、混乱が生じています。信頼回復のための独自の対策を講ずること。

5、市教育委員会が、教育の本質にふさわしく、不当な圧力に屈することなく、文部科学省や県教委の指示を実行する上意下達の機関ではなく、常に教育現場の声に耳を傾け、子ども、保護者、教職員が自由にものが言える条件整備をすすめること。また関係者の合意・納得できる専門的助言がおこなわれるように教育委員会の組織や運営を改善すること。